



伊集院驛ノ混雑（当館所蔵のモノクロ写真をカラー化）

1914（大正3）年1月12日、桜島で“大正大噴火”と呼ばれる大きな噴火が発生しました。噴煙は約18,000メートルまで上がったと推定され、流出した溶岩によって桜島は大隅半島と陸続きとなりました。鹿児島県立博物館には、当時撮影されたモノクロ写真が271点保管されています。近年の科学技術の発展によって、モノクロ写真をAI技術によりカラー化出来るようになりました。カラー化によって過去の災害がより身近に感じられ、防災意識の向上に寄与することが期待されています。写真は、噴火と地震によって避難民が殺到して混雑する、当時の伊集院駅の様子です。

シン・サクラジマ展開催に寄せて

館長 山田島 崇文

1914年4月、本館は県立図書館内に博物部として誕生いたしました。世にいう桜島大正大噴火についての資料保存・展示のためとされています。それから月日が流れ、この3月をもって、ちょうど満110年、同時に昨年4月の法改正に伴う登録博物館としての審査等が終了したことをここにご報告いたします。その記念ともいえる企画展「シン・サクラジマ」を開催いたします。

新型コロナウイルス感染症が終息を迎え、広くウェルビーイングがもとめられる時代となりました。そうした中で「シン・サクラジマ」は本館収集した二次資料、特に白黒写真を核として取り組む企画展です。二次資料の企画展は写真展や蔵出し展を除けば、これまで有史以来記録がなく、初めての試みとなります。関係機関の協

力も得て、AIを駆使し、桜島大正大噴火という大災害を、フェイクではありますが鮮やかに再現、公開いたします。また博物館部発足後まもなく収蔵した大正溶岩の展示や本館自身が所蔵している当時の様子を描いた絵画の紹介なども行います。

これらは現在に災害の警鐘を鳴らすとともに、記録を取るものの大切さや登録博物館としての鹿児島県立博物館の存在意義も問う内容となっています。すなわち本館が設立される直接的なきっかけはこの未曾有の大災害が発生したからともいえるのです。当時の人々がこのことを後世に伝えようと真剣に考えたことなどに思いを馳せながら、ご覧いただければと存じます。この機会に、博物館へぜひお立ち寄りください。

鹿博だよりに関する今年度の事業内容

○「多様性豊かな鹿児島島の自然遺産」収集保存事業（令和5年度実施分）【資・調・教】

- ・黒島，硫黄島，竹島，中之島において，資料収集及び出前授業等を実施

○博物館活動による資料収集事業【資・調】

〈動物〉

- ・鹿児島市，南さつま市，南九州市，枕崎市，始良市，霧島市，いちき串木野市で野鳥の映像資料収集
- ・奄美大島，徳之島で両生類の映像資料収集 ・三島村（黒島・硫黄島）でミナミヤモリ収集
- ・出水市，伊佐市で両生類収集

〈昆虫〉

- ・鹿児島市，霧島市，伊佐市，十島村（中之島），南種子町，中種子町（種子島），屋久島町（屋久島）で水生昆虫収集
- ・霧島市，伊佐市で昆虫収集

〈植物〉

- ・徳之島で植生と景観の映像資料収集 ・徳之島で海浜性植物の収集

〈地質〉

- ・与論島で地形のドローン映像資料収集 ・与論島で海岸砂収集 ・鹿屋市で岩石収集

〈天文〉

- ・鹿児島市でふたご座流星群観察 ・鹿児島市でしぶんぎ座流星群観察 ・奄美市で星物語資料収集

○世界自然遺産の魅力発信事業【資・調・展・教】

- ・奄美大島，徳之島，屋久島において資料収集及び出前授業を実施 ・企画展，講演会，標本作製等を実施

○SSH指定校との連携・協力【展・教】

- ・錦江湾高校や甲南高校，鹿児島中央高校と連携協定を結び，課題研究発表会（校内）での指導助言や当館での課題研究ポスターの展示などを実施

○プラネタリウム番組制作【資・教】

- ・年4回，季節にあわせたプラネタリウム番組を制作 ・季節の星空案内，創作星物語，特集の三部構成
- ・創作星物語は，星座にまつわる物語をギリシャ神話や郷土に伝わる物語，中学生の作文などをもとに制作

○企画展【資・展】

- ・「そうだったのか！霧島山」 3/25～ 6/ 4 ・「チャレンジ理科研究」 6/24～ 8/27
- ・「わくわく！ 昆虫“彩”集」 7/ 1～ 9/ 3 ・「蔵出し 屋久島」 9/30～ 11/26
- ・「理科に関する研究記録・課題研究」 10/1～ 12/24 ・「世界自然遺産～奄美大島・徳之島～」 12/23～ 2/25
- ・「シン・サクラジマ」 3/23～ 6/ 2

※ 事業の種類：【資】資料の収集・保管，【展】展示，【調】調査・研究，【教】教育普及

資料収集・調査研究

令和5年9月、思いがけず初めて見る昆虫と出会いました。博物館実習の「資料収集実習」の時間のこと。博物館に隣接する考古資料館前で、建物横のバナナが立枯れているのに気がつきました。立ち枯れの原因は、虫害ではないかと思い、早速、実習生と葉鞘を剥いてみると、偽茎の数カ所に茶色く変色した痕があり、まもなく葉鞘の隙間から、ポロリとゾウムシが転がり出てきました。正体は、バナナツヤオサゾウムシ *Odoiporus longicollis* (ゾウムシ科オサゾウムシ亜科) でした。実習生には、早速、このゾウムシが南方由来の種であること、バナナの苗に入って人為的に持ち込まれることがあること、鹿児島県本土でも2019年に大隅半島での発見が報告されていること、そして今、思いがけず分布

北限(その後、北限の記録はさらに北部に更新される。)のバナナツヤオサゾウムシを発見したことを説明しました。実習生も私も感激したのは言うまでもありません。

その後、他の地点の調査を含め、本種の報告を「鹿児島県立博物館研究報告43号」に掲載しました。県内各地、遠く離島にも資料収集に出かけることもありますが、すぐ足下の自然にも発見はつきません。多様な昆虫の多様なくらしぶりに目をこらし、思いをめぐらす虫探しの感性が何により大切だと改めて感じます。



バナナツヤオサゾウムシ

世界自然遺産の魅力発信事業

屋久島、奄美大島、徳之島にある世界自然遺産の魅力を広く県民や観光客に紹介するために、今年度、次のようなイベントを行いました。

(1) 世界自然遺産を特集した企画展

博物館企画展示室において「蔵出し 屋久島(9月～12月)」、「世界自然遺産 ～奄美大島・徳之島の自然～」(12月～2月)、鹿児島県庁においてパネル展「世界自然遺産 屋久島」(12月)を行いました。



パネル展「世界自然遺産 屋久島」(鹿児島県庁)

(2) 小中高生を対象とした出前授業

県内7地域7校に学芸主事が出向き、世界自然遺産地域の自然の魅力を紹介し、その保護や次世代への継承のあり方を考える授業を

実施しました。

(3) 講演会「暮らしのそばの自然遺産」

奄美大島、徳之島において、自然の魅力やその保全に尽力している方を講師として招き、自然遺産地域の現状や課題を語っていただきました。



講演会の様子

また、世界自然遺産の自然の魅力をこれまで以上に発信できるように、実際に該当の地域に赴き、標本用資料の収集や最新の情報の取材に努めました。これらの成果は、次年度の移動博物館での展示や企画展に生かされる予定ですので、ご期待ください。

<SSH 指定校との連携・協力>

県立博物館では、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校と連携協定を結び、課題研究発表会（校内）での指導助言や当館での課題研究ポスターの展示などを行っています。

令和5年度は、県立錦江湾高等学校、県立甲南高等学校、県立鹿児島中央高等学校の3校と連携協定を結びました。今年度の各校との連携の様子を紹介します。

【SSH 課題研究への協力】

SSH 各校で行われる課題研究の発表会に参加しました。高校生の^{みずみず}瑞々しい感性を大切にしつつも、科学的なアプローチの大切さや、テーマ設定の重要性について指導しました。また、取得したデータの取り扱いや、ポスター発表・プレゼンテーションのコツについても助言を行いました。後日、より詳しい指導を求めて博物館を訪れる生徒がいるなど、連携・協力が一層深まりました。今後は、博物館の展示や収蔵資料を活用した課題研究も期待したいところです。

【課題研究ポスターの展示】



企画展「理科に関する研究記録・課題研究」

当館では毎年、企画展「理科に関する研究記録」を実施しています。この企画展では、県小中高等学校理科教育研究協議会が実施する「理科に関する研究記録」において、特別賞を受賞した小中学校生の作品を展示し紹介してきました。

今年度からは、SSH 指定校の高校生による課題研究ポスターも掲示し、企画展「理科に関する研究記録・課題研究」として実施しています。これは、小学生からスタートする研究記録が、中学生の研究記

録、高校生の課題研究へと、どのように発展していくのかご覧いただくとともに、今後の研究に取り組む際のヒントとして活用してもらうことを目的として実施しています。また、各 SSH 指定校で取り組んでいる特色のある研究活動を、広く県民に知ってもらうための機会となっています。

今後も、本県の課題研究をリードする SSH 指定校の生徒たちの研究活動を紹介していきます。

<中学生の作品を星物語に>



星物語「星と友達」の一場面

令和4年秋、ある学芸主事から、ラジオで奄美の動物と星をテーマにした中学生の作文が放送されていたと報告を受けました。調べてみると、奄美で行われている創作童話コンクールで最優秀賞を受賞した「星と友達」という作品であることがわかりました。奄美に^す棲むさまざまな立場の生き物たちが、星を作るという活動を通して友情を深めていくという物語です。来年のプラネタリウム夏編の星物語はこれしかないと思い、作品作りに取りかかりました。作者である森千花さんをはじめ、さまざまな方々の協力のおかげで、学芸主事が書いたシナリオではない、初めての星物語が完成しました。中学生ならではの視点で描かれた心温まる物語を、夏休み期間中、多くの方々に観ていただきました。世界自然遺産である奄美の自然、生き物、星など、郷土の素晴らしさを感じてもらえる当館にとってもかけがえのない作品となりました。

今後もプラネタリウム番組を通して、天文についてだけでなく、郷土の自然の豊かさを伝えられるような作品を制作していきます。

企画展を通して

本館では、年間を通して7回企画展を実施しています。約1年前にテーマを決め、そのテーマに沿って資料収集や展示解説パネルの作製などの準備を行います。

今回私は、12月23日から2月25日まで開催した「世界自然遺産～奄美大島・徳之島～」に向けて、11月の3日間、徳之島に資料収集に行ってきました。

最大の目的は、生物と景観の写真を撮ることだったのですが、天候は雨と強風。そして、想像していたよりも寒く、撮影コンディションとしては厳しい状況でした。

そのような中、地元の方に案内して頂き、幸運にもアマミノクロウサギ、オビトカゲモドキ、オオバカンアオイ、オキナワウラボシなど生物や照葉樹林の森や川や海岸の景観も撮影することができました。

図鑑や写真などで、これまで何度も見てきた生物や景観でしたが、躍動感や生命力、そして鮮やかな色彩など、現地で本物を見るとより一層自然の豊かさを感じることができました。この経験が、奄美大島や徳之島の自然の魅力をより多くの方に伝えたいという思いとなり、企画展を作り上げる原動力となりました。

企画展を通して、鹿児島島の自然の魅力を再発見のお手伝いができるように、これからも、本館職員の思いの詰まった手作りの企画展を企画していきますので、楽しみにしてください。



企画展「世界自然遺産～奄美大島・徳之島～」の展示の様子

学芸室の窓から

学芸室の窓から外を眺めると、国道である。途切れることのない車の流れがあり、中央公園の木々の変化から季節の移り変わりを感じることもできる窓である。

ふと歩道に目をやると、先ほどまで博物館見学を楽しんでいた幼児の列が見えた。楽しそうに談笑する幼児の会話を想像してみた。

「1階の魚とイモリがかわいかったね。」「でも、へびは苦手。」「2階のシロクマさわった?」「うん。とげとげのカニもさわったよ。」「2階はジャングルみたいだった。」「3階はたくさんのおきものが展示してあってびっくりした。」「また、来たいね。」「…想像は自由だ。

あるときは、老夫婦が本館を指さしながら仲良く歩いているのが見えた。本館はまもなく施工から100年を迎える。自分たちが歩んできた生涯を振り返りながら博物館を見学され、思い出話に花を添えていることを想像すると思わず頬が緩んだ。

これまで勤務された学芸主事や現在勤務している学芸主事がそれぞれの思いを込めて、来館者にとって魅力ある展示を作り上げてきた。何年も繰り返されてきた「工夫」がよき展示となっているように、私も新しい歴史作りの一端を担いたいと思っている。

現在2月初旬。私は、木の葉の衣を脱ぎ、寒々としている中央公園の樹木を眺めながら、遠足や修学旅行、家族旅行で訪れた方々にとって、博物館がいつまでも思い出に残ってほしいと思った。

今日もまた博物館のエントランスからは元気な子どもたちのあいさつの声が聞こえてくる。数時間後、子どもたちが笑顔で退館することを願った。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080

ホームページ <https://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>